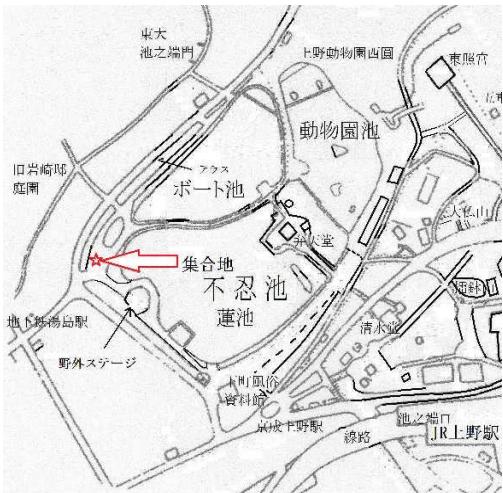


しのばず自然観察会より 2026-2 2026.02.01

2026年2月の活動 不忍池定点観察 2月8日(日)



集合:午前10時 不忍池 蓼池西南端

野外ステージ西側

(湯島天神下交差点寄り) 緑の小旗あり

今回は雨天中止

持物:筆記用具、双眼鏡、飲み物、雨具

(マスク、敷物、昼食、防寒衣類)

解散は午後1時頃、ボート池テラスの予定

参加費不要 非会員の参加歓迎

当日は衆議院議員選挙投票日です(期日前投票制度もあります)。環境正義、平和、暮らし、人権、政治資金、外交など、吟味した投票を!

2026年3月の活動は、15日(日)、不忍池定点観察の予定

しのばず自然観察会 50年史完成

『私たちの上野公園ーしのばず自然観察会50年史』(A5判 カラー刷り 90ページを含め303ページ)は2025年12月15日発行となりました。長い間出版を待ってくださった会員の皆さん、執筆者のみなさん、出版を支えていただいた方々にお礼を申し上げます。

なお、全国の書店で注文していただければ、中継ぎシステムを通して出版元の地湧社から注文した書店に届くようになります。お急ぎの場合やまとめ買いの際は、しのばず自然観察会まで連絡・相談していただければ、直接お送りできます。なお、会員、執筆者等からの注文には、割引価格を検討する予定です。事務局にお問い合わせください。(会のメールアドレスも使えます)

『私たちの上野公園ーしのばず自然観察会50年史』 ISBN978-4-88503-839-6 C0030
著者:しのばず自然観察会(責任編集:小川潔) 出版社:地湧社(ちゆうしゃ)2000円(税別)

しのばず自然観察会 事務局 〒110-0001 東京都台東区谷中3-1-9 小川潔方

1975年創立 電話 03-3828-8775 URL:<http://sinobazu.extrem.ne.jp>

郵便振替 00100-8-84609 しのばず自然観察会 年会費 2,000円

E-mail: uenoyanesen25@yahoo.co.jp (atを@に替えて送信してください)

2025年以前の会費未納の方もお忘れなく!退会の場合は早めに葉書で事務局へ

2026.01.18 不忍池水質(COD)簡易測定(パックテスト)結果

パックテスト COD(mg/l)	2016 01.10	2017 01.08	2018 01.14	2019 01.13	2020 01.12	2021 01.10	2022 01.16	2023 02.19	2024 02.11	2025 01.12	2026 01.18
1 蓮池 弁天堂前	7	5	8	8	4	11	4	4	5	6	6
2 動物園池 弁天堂前	5	4	7	7	7	6	3	5	7	7	16<
3 ボート池 南西端堰	5	7	5	7	3	12	5	3	4	7	7
4 ボート池 ボート場横	4	4	5	30	4	5	4	4	4	6	16
5 動物園池 弁天堂後	7	20	8	7	4	17	5	6	5	5	16<
6 蓮池 弁天堂後	8	4	7	10	6	20	7	10	7	7	7

蓮池 弁天堂前 6 弁天堂後 7 ボート池 ボート場受付横 16 南西端 7
動物園池(弁天池) 弁天堂前 16 以上 弁天堂後 16 以上 (CODmg/L)

昨年までに比べ、やや高い数値が出ました。特に動物園池では弁天堂の前後で、試水を 2 倍に希釈しても試薬の色見本測定幅をスケールアウトしてしまいました(COD16mg/L 以上)。この原因には、動物園池では手製採水器が沈み切らないくらい水深が浅くなっています、そこに枯れ草が溜まって水の動きが悪くなっていた可能性が考えられます。またボート池のボート場受付横でも、2 倍希釈でギリギリ読める値でした。この地点での高い値の原因はつかめません。

しのばず自然観察会の会計監査選出と会計処理について

会計監査の選出について、1月の例会(定点観察会時)で相談した結果、坂部美枝子会員から引き受けてよいとの表明がありました。2月の例会で正式決定となります。

なお昨年初夏の月例会で会員から指摘があった会計の簡素化については、2026年1月1日に、特別会計Ⅱ(「不忍池を愛する会」より受け継いだ上野公園対策基金)および研究費積立金(1980年代の会員からの上野公園研究への拠出金)残高を一般会計に組み入れたうえで廃止することにしました。特別会計Ⅰ(次年度以降分の会費前納分)については、次年度以降分の会費を使い込まない枠内での収支がはっきりするよう、これまで通り残すことにします。

2026年1月の活動案内記載ミスのお詫び

本通信前号印刷版の2026年1月の活動案内で、タイトルが12月のまま「不忍池水鳥個体数調査」になっていました。正しくは、「不忍池定点観察」です。お詫びして訂正いたします。

1月の定点観察会より(2026年1月18日 快晴)

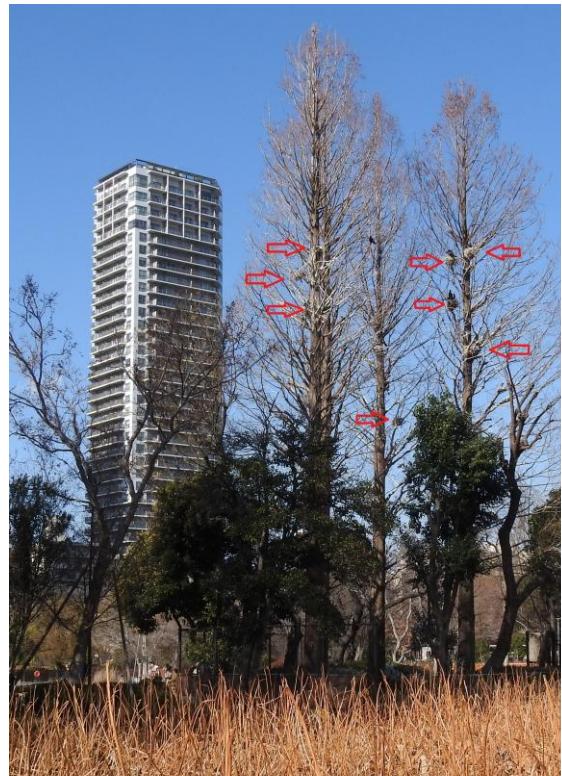
前日に続いて早春のような陽気のもと、7名が参加。園路は12月と同様、弁天堂入口前の広場に骨董市のテントが並びますが、蓮池南側の園路は専有物がなく、すっきりしていて広々と感じます。1月11日に行われた、野鳥の会・東京の研究部主催による猛禽類調査では、強風・曇天のため、不忍池では猛禽類が見られなかつたので、18日は観察会参加者が時々上空を見上げるようにしましたが、近年見られていたトビやハイタカ、チョウゲンボウの姿はありませんでした。

永く、カワウの営巣が見られるのは上野動物園西園内の池の島に限られていました。ここ1~2年、動物園内の弁天橋のたもと(陸地)に立つメタセコイアの樹上に枯枝の固まりが見えていましたが、とうとうヒナが誕生しました。カワウの巣は、メタセコイアの幹から出る側枝は輪生状で、その生え際や先の方にあり、異なる高さの側枝に段々状に見えました(写真赤矢印)。背景を為すタワーマンションと並べてみると、カワウも高層住宅住まいに乗り出したのでしょうか?島は住宅難のようです。

11日にはコガモが3羽見られましたが、この日は姿を見せず、11日に見られなかつたホシハジが1羽いました。

確認した野鳥:オナガガモ、カルガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、コサギ、アオサギ、カツブリ、オオバン、カワウ、セグロカモメ、ユリカモメ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、ドバト、スズメ、シジュウカラ、ムクドリ、ヒヨドリ、ツグミ

なお18日に、たわわに実っているのが見られた弁天堂横藤棚ベンチ脇のカキの実は、24日には1個を残してなくなっていました。ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミなどに食べられたのでしょうか。



1月の観察会から 小川千恵子

2026.01.16 晴れ

9:26 池そばのベンチ前の手すりにユリカモメ1羽が立っている。ボート池の中の鉢の南にコサギが立って睡っている。オナガガモ雌雄、キンクロハジロ3羽が水面にいる。オナガガモ雌2、雄3は、ドバト19羽と共に陸地にいる。カツブリが水面で羽づくり。

浮き橋

水の中、西から 2 つ目の鉢にカルガモ2が眠る。鉢の下に伸びた板の上にオナガガモ雄が眠る。3つ目の鉢の北側の水面に、お尻をこちらに向けたオナガガモ雄。その南にキンクロハジロ 4 羽が浮く。西から 3 本目から 6 本目のくいの上にユリカモメ3が立ち、7 本目にはカワウが立つ。池北の水面の手前側にはキンクロハジロ 63 羽が浮かぶ。内雌は 5 羽。奥、東側には、53 羽いる。

ユリカモメ20が、鳴きながら一斉に飛ぶ。オナガガモ雄が水面に伏せるような形で進む。嘴を水面につけて嘴を動かしているらしくて、口元から波紋が広がる。その横をカワウが羽をバタつかせて、水面を走るようにして飛び立ち西の方へ行く。ひとりの男性が大声で「イケヤ、モウ」と何度も叫ぶ。そのせいか池北側の手前にいたキンクロハジロ 30 羽程が一斉にくいの間を通って、池の真中方向に進む。その中にオナガガモ雌 1、雄 4 とユリカモメ 3 が混じる。ひっくり返したボートの上には、ユリカモメ 7、オオバン 1 が立つ。池北側の水の中の鉢にオナガガモ雌 2 雄 3、岸に雄 1。オオバンが岸に上がって、枯れている草をついばむ。何を食べているのかな？

カツブリが浮き橋そばまで進み、水音、水しぶきを上げて潜る。と、浮き橋に立っていた3才位の女の子が「キャッ！」と悲鳴をあげて、すぐそばにいた父親に「何かいた」と訴える。父親は事情をのみこめなかつた様子。カツブリは5m以上東側の水面に出てきたので、私がその女の子に説明する。

西の方の樹々の間からツピーツピーと声がする。行ってみると、シジュウカラがハンノキで鳴いている。ツピツピ、ツピツ、ツピツピツピツ。ドバト 3 がハンノキにとまる。ハンノキは雄花が 5 cm以上の長さで下がる。シジュウカラがハンノキの何かをついばむ。オオバンの声が響く。オナガガモ雌雄ペアのうしろを雄2が鳴きながら追う。

もうボートが出ている。南下する。池の中の鉢、一番北に 1m×1m位の古い木枠のがひとつ。次にコンクリートの鉢、その南に比較的新しい木枠 3 個、その南に古い木枠のが 2 個。中は何も無い。刈ったのか？掘り返したのか？

頭が黒っぽいカツブリ①がいる。②③が飛んで来て、鳴く。と①が答えるように鳴く。②③の内の1羽は頭が赤っぽい。②③の内の1羽が①に近付くと、①は潜る。①は②③の南の方に出る。①は水面を走るようにして南の方へ行って鳴くと、②③の内の 1 羽が同じように水面を走るようにして寄る。①と②が鳴きかわし、③は残る。①②が北へ泳ぐが、南の方で③の鳴き声がすると①or②が南の方へ泳ぐ。カツブリ計 3、とメモしていると池の東(蓮池)の方から鳴き声がする。ということでカツブリは 4 羽以上。

岸にオナガガモ雌 7、雄 9 が寝たり起きたりで座っている。水面には雄 1。オナガガモ集団の横で、オオバン 5 が草をついばむ。何を食べているのだろう？

タチアオイは大きな緑の葉が 50 cm位に伸びている。

オナガガモ雌 5、雄 8、オオバン 1、ユリカモメ 5 が水面に浮く。カツブリの鳴き声が何度も聞こえる。水仙が咲く。もうすぐ満開。ひっくり返したボートの上はユリカモメ 2、セグロカモメ 1 が止まる。岸にはオナガガモ雌雄。カツブリ 1。

集合地

池側にピンクのタチアオイ 1輪咲く。ソメイヨシノは蕾ができている。カンナの葉はほぼ茶色、下には緑の葉も残る。丈の高い水仙の葉が伸びている。

蓮池は茶色の棒がズラーツと池一面に立っている感じ。葉は皆枯れて水面、水中に落ちている。池東北側のアシ原(カエル島)も薄茶色群。野音前からボート池と蓮池の間の桜並木を見ると桜の枝に大きなアオサギが南向きに立つ。人は少ない。野音北側から北を見ると茶色の棒群の中にコサギ。野音は若い女性の歌声と大音量の音。

浮き橋手前の地面。黄色い花、白い綿毛のノボロギク。浮き橋は手すりにユリカモメ 2 が止まる。もう 1 羽、飛来して止まる。浮き橋の北の水面、コサギが歩いている。

したまちミュージアム前のアキニレの枝先に昨秋の実がまるで茶色の蕾のようにくっついている。蓮池の水量は多い気がする。河津桜は蕾が大きい。蕾の先っぽが緑に見える。大漁桜も蕾が大きい。Sa さんが濃いピンクの花 2輪咲き始めていると知らせてくれる。蓮の中にアオサギらしいのが 2 羽いるみたいといでので皆で見る。南側にいたのが頭を動かし、アオサギと断定。その 2 羽とは別に大きいアオサギが北から南へ、そして西へグルーッと回って飛んで来て、先の 2 羽の西側に降りる。計 3 羽。

新設トイレあたりの西の池にイカダ 2 つがつながれている。蓮刈りが始まるもよう。

こつとう市の白いテントが、動物園弁天門入口、入場者が並ぶあたりに 7 張り。ここだけは人が集まっている。キクモモとタイリョウザクラ(F524)は枯れたまま。どうして枯れてしまったのか?

蓮池、水流入あたり。蓮の棒はやはり低い。桜たぶんソメイヨシノ、F57、69 cm、J60、57 とガムテープに書いて貼ってある。何の数字かな? 69 cm は幹回り?

動物園弁天門入口には並んでいる人はいない。I さん、25 日まではパンダ見物は時間指定の抽選に当たった人だけが見られるから、と。

水質検査の水取り①番と②番。藤棚方向へ。十月桜がまだ咲いている。蕾もあるが、咲き終わって茶色になったものも。椿はピンク、開き切らないチューリップ型の花。藤棚の東南にある桜も蕾が見える。南隣のカジイチゴはまだ緑の葉が残る。アキニレにツグミ 7 羽。ヒヨドリ 1 羽が来ると、7 羽が一斉に北へ飛んで行った。ユッカは花のついた茎 1 本が伸びている。柿はまだ残っている。ムクドリ 4 羽が来て、次々ふえて、柿を食べる。計 13、4 羽。(1月 24 日土曜日には、柿は枝先にぶら下がる 1 個を残して全部ガクだけになっていた!)

シジュウカラ 2。弁天堂裏から動物園方向を見る。西側にある背の高いメタセコイア 4 本にカワウが巣をかけている。木は下の方の幹に近いところの枝がカワウのフンで白くなっている。

⑤番の水取り。コサギ 1 羽。

貸しボート場前の南の水面にオナガガモ雄が寝ている。その前にカツブリが泳ぐ。カルガモ 3 羽。その横にけい留してある黄色の屋根の箱型ボートの上にコサギが片足で立つ。冠羽が見える。

③④の水取り。北上して西へ。カワウのフン害のメタセコイアは動物園南西の出っぱりの場所にあった。下のカンボク(サツキ?)は白い点で覆われ、フンだらけ。

動物園のフェンス手前のアセビは花芽が下がる。

ボート池北側で、65.J60-50と印されたアキニレの幹にまかれたロープの先は、池に 1m×1m、直径 10 cm位のプラスチックの管で作られた四角い囲いがある。何?このあたりにあった鉢の植え込みは全く無くなっている。朝、池西を歩いた時も、以前セイタカアワダチソウやキショウブやガマがあった水中の植え込みの鉢もなくなっているのに気づいた。何故?これから何かを植えるの?

浮き橋手前の筏にホシハジロ雄がいる。ひっくり返したボートの上にセグロカモメ1羽がいる。ベンチに座っている男性は、ベンチ背にとまたドバトに、後ろ手で餌をやる。男性の前にはドバト、ユリカモメがせまっているが、それは手で払う。ベンチ下には蓋、ベンチ上にはワンカップ酒のコップ。こういう人には、餌をやらないでの声はかけにくい。

ハンノキの下に水仙 1 輪咲く。これから咲くのがふえそう。ユリカモメ 10 羽が、ボート池の中央近くで集団で水浴び。

いつものデラスへ行って、取った水の水質検査。

テラスで、座ったベンチのうしろ、西側に高さ7~8mの大島桜があることに気づく。幹の南側は痛んでいて、木の皮はグチャグチャになっている。でも、上に伸びている枝にはもうちゃんと蓄がたくさんついている。こういう場合、新しい枝の維管束は徐々に幹の中に発達していくので、木としては大丈夫、と潔。すごいね、強いね、咲くのが楽しみね、と皆で話す。

☆観察会の 2 日後、20 日の朝 10 時半頃にこのテラスの前を通ったら、赤い小さな作業車と小さなトラックが止まっている。2 日前に咲くのが楽しみねと話していたオオシマザクラの主な枝は切られ、切られた枝がトラックにのせられて、その上に青い作業着姿の男性がのっている。オオシマザクラの大きい枝は1本だけが残っている。ボーゼンとする。何故切ったのか? 何故切らなければいけなかったのか? なぜ蓄がいっぱい育ってきているこの時期に切らなければいけなかったのか? 切った枝はどうしたのか? 切った枝はもしかすると水に差しておくと花が咲いたのではないか? 切った人、切れと言った人には、ぜひ、説明をしてほしい!!

☆20日朝、蓮池とボート池の間の南に島のような囲いのあるところ(イチョウの木が何本もあるところ)に、10×15×30cm位のネズミのトラップが 5 個設置してあった。のぞき見る勇気はなかった。

注)ネズミのトラップ「ラットクル・スリム」は昨年 12 月にはボート池の外周園路脇に複数個置かれていました。箱番号と「調査中(株)ヨシダ消毒」というラベルが張っていました。(小川潔)



箱型ボート屋根上のコサギ